

美しい広島市での環境保全研修を終えて

受入自治体：広島市

氏 名：ウィリヤ・テワヌクン

出身国：タイ王国



1. はじめに

3年前に大学を卒業後、愛する故郷で学んだ知識を役立てるため、プーケットに戻り働くことを決意しました。私は現在パトン市の衛生技師として勤務しており、主な業務は、下水処理、ISO14001、環境影響調査、建設事業です。入庁して3ヶ月後に、本市の下水処理場を訪れた日本の技術者と環境保全について話す機会があり、日本での環境保全業務に興味を持つようになりました。パトン市では、廃棄物や下水処理の問題により、深刻な環境問題が生じています。年々排出されるごみの量は増えており、本市の埋立地や焼却工場の処理能力には限界があります。そのため、廃棄物処理が重要な問題になっています。下水処理に関しては、不法な排出や人口密集地で下水処理がなされていないことから、都市部の水路の水質汚染が起こっています。

私は広島市での研修に参加する機会を与えられ、非常にうれしく思いました。環境管理や都市計画を効率的に行っている広島市での研修は、非常に貴重な経験であり、本市の実情に合わせ役立てたいと思っています。

2. 専門研修の概要

広島市では、環境保全、上下水道、公衆衛生、都市計画などについてのすばらしい研修を受けました。講義の後、その内容に沿った現地視察に出かけ、理解を深めることができました。さらに、研修期間中に、廃棄物管理や公害管理についてのJICA(独立行政法人国際協力機構)のプログラムや環境ボランティアとの会合も組まれていました。アジアや中米の研修員や環境ボランティアと意見交換をするよい機会となりました。

2.1 環境保全研修

広島市は以前、増え続けるごみの問題を抱え、埋立地は数年で限界量に達するところでした。埋立地への廃棄量を減らすため、広島市はごみ削減運動を立ち上げ、ごみ分別のルールを制定しました。広島市のごみ問題への対策を学ぶことは、本市に役立つと思います。また、河川、騒音、大気汚染への対策についても学び、汚染物質の検出についての見識を深めることができました。



騒音対策技術を学ぶ

2.2 下水道研修

広島市には旧市内にある合流式（雨水と下水が同じ管に流入）と新市域にある分流式という２種類の下水収集システムがあります。ブーケットでは、全市で合流式を採用しており、合流式を使った浸水対策システムの建設についての研修は、私の業務にとって役立つものです。さらに、下水道が豪雨であふれた場合、河川の汚染を防ぐため、後で処理するよう設計されていることを学び、広島市が河川をどれだけ重要に考えているかを理解することができました。これは私の業務にとって非常に貴重な参考となりました。また、水路やポンプ場の建設には、シールドトンネル工法など初めて聞く建設方法を使うことを学びました。

2.3 上水道研修

広島市の上水道は日本で５番目に古く、長い歴史を持っています。1945年に水道局の職員たちが犠牲となり、原爆症を発病しながらも働き続けた話を聞き、感銘を受けました。彼らは生きるために水がいかに大切かを知っており、働き続けたのです。現在広島市では、魚類自動監視装置、水中油分自動監視装置、全自動シアン分析装置などを用い重要な水質分析を行っています。こういった装置は本市にはなく、目新しいものでした。

2.4 道路・交通研修

広島市には、市内電車、バス、アストラムラインなど、市民のための様々な大量輸送機関があります。交通政策は、人間にも環境にも優しい輸送システムを作ることが目的としています。私は、この高齢者、子ども、障害者などすべての市民の足となり、環境への負荷を軽減する輸送環境を作るという考え方に全面的に賛成です。広島市は、この点に関し非常に成功を収めていると思います。例えば、軽量軌道交通である市内電車は、環境に優しく、高齢者や身体障害者、ベビーカーを押す人たちにも優しく作られています。



橋梁の建設現場を視察

2.5 都市計画・都市活性化研修

広島市の都市計画は1923年に旧都市計画法を適用したことから始まり、都市計画に基づき、道路や公園といった社会基盤を設計、建設しました。残念ながら、1945年に原爆が投下され、市の大半は廃墟となり、広島市は復興のために新たな計画を立てる必要がありました。このため、平和都市記念建設法による道路、公園、区画整理事業の計画を立て、爆心地のそばに平和記念公園を建設し、市の中心部に東西に延びる百米道路を作り、河岸緑地を整備しました。広島市は被爆後、都市計画を転換し、都市を活性化し、焼け野原から全く新しい都市に復興することで、近代的に生まれ変わったのです。

2.6 公衆衛生研修

広島市には衛生研究所があり、食品、薬品、水質、大気質の研究、監視、調査を行い、病原菌や細菌の調査を行っています。ここでの研修では、講義に加え、河川の水の分析も行いました。さらに、BOD や COD についての疑問を解明することができました。来日前に、日本の排水処理での BOD、COD に関するサイトを見ると、BOD 濃度は COD 濃度よりも高いと書いてありました。私はそんなことがあるはずはない、何かの間違いだと思っていました。衛生研究所での研修を受けた後、その理由がわかりました。それは、日本では環境保護に非常に大きな懸念を抱いており、強力な酸化剤である六価クロムを COD 分析の標準方法には用いていないからです。



河川の水質分析実習

2.7 平和研修

1945 年 8 月 6 日に広島市は人類史上初の原爆の被害を受け、14 万人以上がその年の末までに亡くなりました。多くの被爆者たちは癌などの原爆の後遺症に苦しみました。平和記念資料館を見学し、被爆体験講話を聞くことで、核兵器の恐ろしさをより現実のものとして感じるようになりました。このような悲劇を二度と繰り返さず、核兵器のない平和な世界を作り出すために、広島市は被爆の実相を伝える取り組みを行っており、次世代に被爆の実相を伝える平和教育を行っています。

3. おわりに

この 6 ヶ月間、たくさんの貴重なことを学び、仕事に役立つさまざまな貴重な経験をしました。習ったことの中には、直接仕事に関係のないこともありましたが、どんな知識も役に立つものだと思います。研修で習ったことをこれからも学び、仕事に生かし、日本での研修を受ける機会のない同僚にも教えてあげたいと思っています。

最後に、私が日本で 6 ヶ月間実り多く楽しいときを過ごす手助けをしてくださった、広島市役所の国際交流担当の方々、講師の方々に心からお礼を申し上げます。